

H23 第 16 回中国教職員訪日団団員の感想

●戦後 60 年間に、日本の教育と科学技術は驚異的な発展を遂げた。8 日間の体験と見聞は忘れることのできない多くの印象を残した。教育に携わる者として、日本の教育が収めた成果に深い敬意を表すとともに、日本の教育関係者の丁寧な仕事ぶりと、世界に目を向けていることに心を打たれた。

日本の学校教育の理念には国際性と多面性がうたわれ、例えば、武蔵高等学校は、「三理想」、「生きる力」、九段中等教育学校は、「豊かな心知の創造」、北野高等学校は、「授業第一、文武両道、世界で活躍できる力」等を教育方針に掲げていた。

日本の学校教育は実践の中で学び取ることが大切にし、教科書を用いて学ぶ授業以外に、学期毎に「林間学校」、「スキー教室」、「家庭教室」、「修学旅行」等の体験学習を設けている。日本滞在中、校外活動に参加する小中学生の姿をたくさん見かけた。

日本の教育の新たな改革は、基礎教科の授業の質を高めることにある。学習指導要領は、関連教科の授業時間を増やし、国語、理科、外国語の授業を一層充実させるほか、質の向上のための評価を重視していた。

教員の採用と登用は厳格な制度のもとで行われ、定期的に赴任校が変わることが、地域内の公平な人的資源の配置に役立ち、教育の均等な発展を促している。日本の教師は新しいことに積極的にチャレンジし、総合的能力に優れている。特に、全教科を担当する小学校教師の責任とプレッシャーの大きさからそれをうかがい知ることができる。「真剣な取り組み、周到な配慮、細やかな応対、礼儀ある振る舞い」は、訪問した学校で出会った校長をはじめとする先生方や、随行してくれたスタッフの誰にも感じ取ることができた。

他山の石、以て玉を攻むべし。自らの足りない点に気付くとともに、より強く覚えたのは責任感と緊迫感だった。私は日本の学校教育の優れた点を参考にし、中国の特色と実情に結びつけ、考えを新たにし、改革にチャレンジし、国内外の交流を活発にして、未来の社会に適應できる人材を育てていきたいと思う。未来志向の態度で、生徒や周りの人たちに、ありのままの日本を伝え、中日両国の子々孫々にわたる友好のために貢献したい。

●8 日間の訪問を通して、中国と日本の教育には多くの共通点があり、互いに参考にすることができると感じた。生徒の多面的能力を育てようとする日本の教育と、中国が進めている

る素質教育の理念は一致している。いずれも、生徒の個性を大切にすることを前提に、多面的能力の開花を目指している。日本の高校の授業で採用されているグループ討論、習熟度別授業、選択科目毎のクラス編成などは、私たちのやり方と同じである。しかし、日本は教育理念の実現において、より着実、より効果的である。今回視察したのはすべて大都市にある進学校で、規模は小さいが、教室、実験室、図書館、自習室、クラブ活動室など、学校施設がよく整っていた。経済的に立ち遅れた地域の教育にとって、このようなハード面の条件を備えることは不可能であり、理念は同じでも、その実現に当たり大きな差が生じてしまう。習熟度別授業を例にとると、日本では、教師がすべての生徒に配慮して行っているが、私たちは、成績によって生徒を分けているだけである。選択科目毎のクラス編成にしても、日本では、生徒が本当の意味で「必要に応じて学ぶ」が、私たちの生徒は消極的に受け入れている。同様に、人間性の重視の面で、日本の生徒は個性を存分に発揮することができるが、私たちの生徒は高得点を取る代わりに個性を犠牲にしている。中国の農村教育は、なお長い道のりを歩まねばならない。私たちは今回学んだ成果を今後の教育活動に生かし、農村教育の質を向上させていきたい。

●日本は悠久の歴史と伝統文化を有する国である。今回、日中友好会館と中日友好協会を通して日本を訪れ、視察の旅をすることができたことは、とても貴重な経験であった。滞在中に、日本の文化や歴史に触れ、教育の現状を見聞し、深い感銘を受けた。狭い国土、清潔な環境、現代的な施設、人にやさしい配慮、日本の人々の温かさやもてなしの心と細やかで実直な対応などが、深い印象となった。

小学校、中学校、高校、大学等の視察と、文部科学省でのブリーフィングを通して、日本の学校教育について系統的な理解をすることができた。まず、基礎教育を極めて重視している点である。カリキュラム、授業、生徒の3つのポイントのいずれも「生きる力」の教育を重視し、その上で、学科と技能の習得および思考力、判断力、表現力のバランスある養成に力を注いでいる。また、道徳と体育を充実させて、豊かな情操を養い、健康な体作りを行っている。これらの実現に向けて、小、中学校の授業時間も増加している。また、日本は生徒の多面的能力を養うことを重視し、教育を実体験、社会、経済と結びつけている。

次に、教育内容が充実している。学校視察の中で、「充実」をいくつか実感した。(学習指導要領の教育内容の主な改正事項に提起されている)

□充実した言語活動：カリキュラムの中で十分な授業時間が確保され、特に表現力を育てることに力が注がれている。例えば、北野高等学校では、数学の授業で、教師と生徒、また

は生徒同士が議論し、生徒は解答の過程を説明する訓練を行っていた。

□充実した文化伝統関連の教育：視察した学校はどこも伝統に根ざした活動と、書道や柔道などの授業が行われていた。

□充実した体験活動：クラブ活動はすでに教育制度に組み込まれており、他にも修学旅行や、中学生の工場や会社における仕事体験などがあり、日本の教育の特色をなすとともに、個性を伸ばすことへの重視の表れでもある。

□充実した外国語教育：外国語教育が極めて重視されており、英語の授業の多くに教師が二人配置され、クラスを分けるか、少人数制を取ることによって、外国語を学ぶための良い環境が整えられている。九段中等教育学校では、毎朝イングリッシュシャワーの時間を設け、英会話力のレベルアップに努めるとともに、コミュニケーション能力と自信を養うことにつなげている。

7日間の視察訪問を通して、日本の教育に対して全く新しい認識を得ることができた。帰国後、これらの新しい理念と方法を仕事に応用し、中日文化教育交流と我が国の教育事業の発展に貢献したい。